

第 82 回目の GIS News! です

初夏のすがすがしい季節を迎えました。山の樹々の緑も深まり爽やかな毎日です。6月は心身ともに衣替えして「さあ一心機一転、頑張ろう！」という気持ちになる活力に満ちた季節です。

さて、今回は電子データ化する時の留意点について考えてみます。

「電子情報化するのなぜ？」

一般的には大量の資料を検索しやすくし、資料を複数の人間が同時に利用できるようにする為と言われています。逆にいえば、個人が取り扱う量の少ない情報を電子データ化する利点は少ないことになります。では、無駄のない電子化を行うにはどうしたら良いのでしょうか。

○どのように電子情報を取り扱っていますか。

ただ電子情報化したからといって利便性が得られるものではありません。それをどのように管理、運用して行くかが大切です。データの一覧を作成する必要があるものであれば検索、絞り込み、印刷のシステムが必要です。ものによっては情報分析などの機能も必要になってきます。データの運用方法を考えておかなければ、箱の中にただ詰め込んでいるのと何らかわりありません。

○他のデータとの互換性を考慮していますか。

電子情報の利点の一つとして、物理的な大きさを圧縮できデータを他の情報と絡めて利用できることです。例えば、名簿であれば、各個人の様々な情報を付加していくことで、住民情報などの関連情報から各個人の情報を導き出すといった相互利用が可能になります。互換性を考えないで電子情報化してしまうと、紙がコンピューター上の画面に置き換わっただけとなり、かえって不便になりかねません。

今後の電子情報化と現在の利用方法改善のために、上記の2つのポイントをチェックしてみてください。これらを解決するには、利用者自身の電子情報への理解と、情報化作業を担当する側との十分な打合せを行うことが大切です。

次回の GIS News!

今回は、2004年7月5日発行予定です。よろしくお付き合いください!

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 佐藤秀紀 発行日：2004年6月14日



風薫る季節の到来です。

